

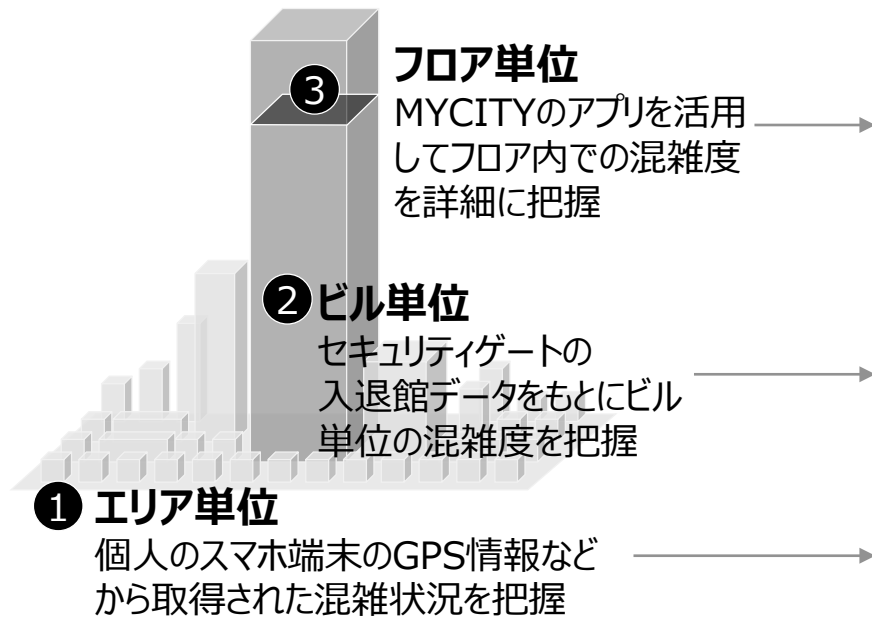
Project 01 : オフィスの疎密可視化・接触履歴による感染症抑制とビル・エリアスケールとの相関モデル構築

実証の目的と実施内容

【目的】

- ✓ 対象エリアにあるオフィス利用者の感染拡大防止のため、エリア・ビル・フロアにおける混雑の見える化及び混雑要因の分析を行い、密・接触回避の各種施策を検討し、混雑抑制を促す行動変容につなげる
- ✓ With・Afterコロナにおける、新しいオフィス利用や働き方の在り方の検討につなげる

テーマ 3密回避	実施エリア 西新宿・六本木・渋谷	プロジェクト実施者 (株)MYCITY (プロジェクト代表者)、野村不動産(株)、森ビル(株)、東急不動産(株)
-------------	---------------------	---

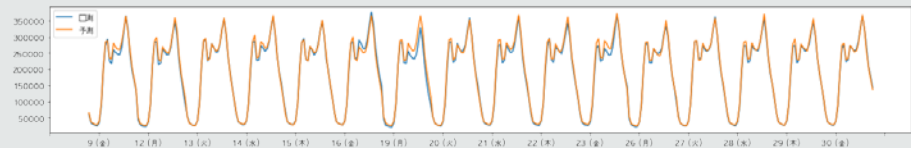


データの可視化・ツール活用

- 実証に協力したデベロッパー3社の従業員各200~300人を対象としてMYCITYのアプリを提供し、個人の位置情報やフロアの混雑状況を提供・発信

重回帰分析*を用いた予測モデル化

- エリア・ビルについては誤差3~5%程度のモデルを構築
(渋谷エリアの時間別滞在人数推移に関する理論値・実績値)



*重回帰分析：ある変数が他の複数の変数とどのような相関関係にあるのかを推定する統計学的手法
(複数の要因が結果にどのように決定づけているのかを分析する手法)

事業の成果と今後への期待

主要な 成果

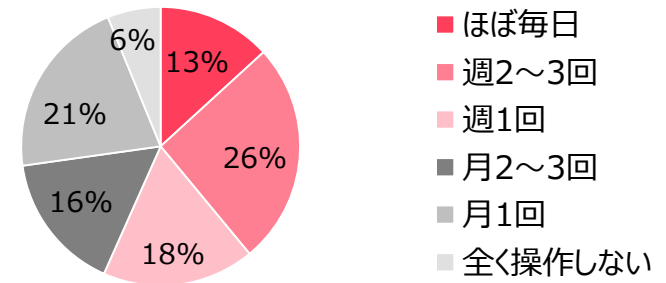
エリア・ビル・フロアの混雑推計モデルを作成

- エリアやビル単位での混雑状況は、**1週間前と前日の同時間帯の混雑状況をもとに高い精度で推計**可能であることを確認
- 実証3エリアで、エリア間の日・時間別推移に強い正の相関（相関係数0.9以上）があり、**あるエリアの混雑から、他エリアの混雑状況を推定**しうる
- フロアでの混雑状況はランダム性が高く、推計よりも**リアルタイムでの状況把握が必要**になることを確認

フロアの混雑状況等の発信に対するユーザーの関心度を確認

- 実証に参加したユーザーの関心度も非常に高く、**約6割のユーザーが恒常的にアプリを活用**。うち、1割程度のユーザーにおいて行動変容が確認された*

どの程度の頻度でアプリを操作したか



実証を 踏まえて

- ✓ 【発展性】実証を通じて、様々な主体が既に保持するエリア滞在人数や施設の在館人数情報を活用することで、エリア・ビルにおける混雑の予測も含めた情報発信が十分見込める
 - 各主体からのデータ提供（個人情報削除含む）に向けた、**ガイドラインや運用ルール等の策定を官主導で実施**する意義があるのではないかと